

# 10年国債利回り急落

最低更新  
マイナス0.43%

えます

高性能補聴器

テレビも無線で接続

## 「自分がしない環境」必要

（中澤佳子）

参院選・与野党論戦に望むこと

働く介護者のセーフティーネットをつくる。会社員支援や職の賃上げなど各党の主張は、どれも間違っていない。スピードアップを考え、一つでもいいから早く実現を。

私の場合、いまは七十六になる母親が早くからアルツハイマー型認知症になり、十三年介護している。マンション開発会社に勤めていたが、介護と両立できず退社した。一人で苦しみ、心がボロボロだ

なっている人にとって一番必要なのは助言してくれる人だ。育児・介護休業法を見直し、一定数の従業員がいる職場に、介護で悩む社員にアドバイスをしたり、本人に代わって、使える制度や必要な手

一現状では追い詰められている人が多いと。介護に直面すると、自分が欲しい情報が何かも分からな

い。「介護しながら働くこと

大きな変化だ。これまで注目されたのは、介護される人や介護職員だった。介護する家族や働く介護者にやつと目を向けてもらえた。そもそもいつまでもこのまま仕事を続けるのは無理だ。

私もいまの介護保険の考え方には「家族がやり、手が足りない分を外（のサービス）で」だった。働きながら介護する人にどうってはこれだと、仕事を続けるのは無理だ。

介護に押しつぶされそうになっている人にとって一番必要なのは助言してくれる人だ。育児・介護休業法を見直し、一定数の従業員がいる職場に、介護で悩む社員にアドバイスをしたり、本人に代わって、使える制度や必要な手

一他にはどんな対策がある。政府内では「要介護1、2」に認定された軽度者向けの生活援助サービスを介護保険の対象から外すかが検討されている。そうなると働きながらの介護は厳しくなる。命を預かる介護職の社会的地位も低い。看護師と同等の知識を持たせて、それに見合った賃金にすることも必要だ。

—介護のために会社を辞める人が増え、政府も「介護離職ゼロ」を掲げる。

そもそもいまの介護保険の考え方には「家族がやり、手が足りない分を外（のサービス）で」でもう、いまは母親を自宅で介護しながら会社経営を両立している。

代表理事 和氣美枝氏

いま  
くらし  
経済  
と  
明日を選ぶ  
2016参院選



わき・みえ 1971年生まれ。母親がうつ病にかかり、やがて認知症を発症し、介護のため退社。働きながら介護をする人の情報交換の場や企業などに介護離職防止の研修をする「ワーク&ケアバランス研究所」を設立。今年、一般社団法人「介護離職対策促進機構」を結成して活動を広げている。

が当たり前の社会」と言つて、介護の最初の相談窓口になる「地域包括センター」についても、「足りない」という声をよく聞く。だが、介護に直面したら、まず休業期間を活用して、ケア関係者、自治体、親族、勤務先と交渉し、「自分がやらない環境」を整えることが大事。そのためなら九十三日で十分。その上で、短時間勤務やフレックスなど働き方を考えるべきだ。こんな風に介護環境をどうつくるかのアドバイスが必要になる。

通算九十二日の介護休業についても、「足りない」という声をよく聞く。だが、介護に直面したら、まず休業期間を活用して、ケア関係者、自治体、親族、勤務先と交渉し、「自分がやらない環境」を整えることが大事。そのためなら九十三日で十分。その上で、短時間勤務やフレックスなど働き方を考えるべきだ。こんな風に介護環境をどうつくるかのアドバイスが必要になる。

# 介護離職防止 相談制度を

考  
え  
る。  
と  
2016参院選

⑧